

成果報告書

第 30 回国際保健医療学会学術大会 2015
「コンゴ民主共和国キンボンド地区におけるワークショップ」 学会発表
慶應義塾大学看護医療学部 4 年川村麻亜紗

<活動目的>

昨年度湘南藤沢学会の助成を受け、コンゴ民主共和国キンボンド地区においてアカデックス小学校の生徒を対象に、児童が安全に健康に学校に通えることを目指し、栄養ワークショップを実施した。その評価をもとに、今年度は同地区の地域住民、主に母親を対象とした栄養ワークショップを実施した。2 年間の活動よりキンボンド地区における有効な健康教育方法について研究をしてきた。2 年間の研究成果を第 30 回国際保健医療学会学術大会 2015 のフィールド研究において研究発表する。他の参加者との意見交換や他の参加者の発表見学を通して、本研究の考察を深め、今後のコンゴ民主共和国キンボンド地区における健康教育活動の発展を目指す。

<活動内容>

第 30 回日本国際保健医療学会学術大会 2015 は 11 月 21 日、22 日に金沢大学角間キャンパスにおいて開催され、シンポジウム、講演、フォーラム、口演発表、ポスター発表などが行われた。本研究の成果について、日本国際保健医療学会学術大会のポスター発表部門において、「コンゴ民主共和国キンボンド地区におけるワークショップ」の題目でフィールド研究として発表を行った。学術大会のポスター発表では、全ポスター発表の演題が 2 つ日間でテーマごとに 12 のグループに分けられており、1 グループに 6~7 つの演題が含まれる。1 グループごとに発表時間帯が決まっており、同じ場所にポスターが発表順で掲示される。時間になると、研究発表者とグループのテーマに関心のある参加者がポスター周辺に集まる。1 つの演題に対し、研究発表時間 3 分、質疑応答時間 1 分と決まっており、研究発表者がポスターの前で説明を実施する。グループの全演題の発表が終わったのち、発表者・参加者が自由にディスカッションする時間が設けられている。「コミュニティヘルス」をテーマとしたグループにおいて、11 月 21 日に研究発表を実施し、発表後多くの国際保健の専門家やその他の参加者とディスカッションをし、研究に関するアドバイスを頂くことができた。また、2 日間参加し、「途上国における栄養問題への取り組み」を扱った自由集会への参加や、様々なポスター発表を見聞きし、新たな知識を得て自身の研究を深める機会となった。

<活動の成果>

研究発表後、国際保健の専門家の方々とディスカッションをする機会を得て、研究への貴重なご意見を頂くことができた。「知識の定着と行動変容は異なる。知識が定着したからと言って、行動変容がされていくわけではない。この研究においては、知識の提供が主でなされており、行動変容を促すようなステップが必要ではないか。その際、コンゴ民主共和国の方々が実践したいと思えるような方法で提示していく必要がある。」というご意見があった。コンゴ民主共和国では、学校において栄養や健康に関する指導があまりされておらず、大人も子どもも病気の予防や栄養に関する知識に詳しくない。このことから、コンゴ民主共和国においては栄養改善のための行動変容を促すためにも、まず病気の予防や栄養素に関する知識を持つことが重要だと考える。大人に対する指導は

今年度が初めてであり、しばらくは知識の定着を目指していきたい。また、次の段階である行動変容に向けて、知識の定着を目指したワークショップを実施しつつ、コンゴ民主共和国にあった行動変容を促す方法を現地の人へのインタビューなどを通して考えていきたい。

また、2日目に「途上国における栄養問題への取り組み～Double burden of malnutrition～」をテーマとした自由集會に参加した。途上国において、栄養不良だけでなく栄養過多も大きな問題となっていており、国際保健の分野において現在、栄養不良・栄養過多の両面への対策が重要になってきていることを学ぶことができた。コンゴ民主共和国も栄養不良だけでなく、栄養過多の問題が生じている国として紹介されていた。コンゴ民主共和国が発展していくにつれ、地域格差も大きくなることは推測されるが、栄養不良だけでなく栄養過多の問題も大きくなっていくと思われる。地域住民に対し栄養に関する健康教育を継続することで、現在の栄養不足の改善だけでなく栄養過多の予防にもつながるのではないかと感じた。今後は栄養過多の予防に関する内容も取り入れ、栄養バランスについての内容を充実させていきたい。また、各国での取り組みを見聞きし、現地の地域住民が主体となった住民参加の重要性を感じた。1年に1度の渡航であり、継続してワークショップを行えない問題がある。来年度は地域の有力者などにインタビューし、現地において主体となってワークショップを担っていただける方を模索していきたい。現地の方がワークショップを担うことで、現地の生活によりあった方法で知識を提供していくことができるのではないかと考える。

<今後の課題>

2年間の活動を通し、アカデックス小学校の児童と母親に対する栄養に関する知識の提供を実施してきた。今後も栄養に関するワークショップを実施し、知識の定着を測る。知識の定着に向け、年に1回の渡航であることや、同一の参加者を集めることが困難であることなど様々な課題がある。現地の方が主体となって年間を通してワークショップが継続され、知識が定着していくことを目指していきたい。知識があつたとしても、人が習慣としてきた日常の行動を変容することは困難なことである。知識の定着を目指すとともに、コンゴ民主共和国のキンボンド地区においてどのような方法でワークショップを通じて、行動変容を促すことができるか考えていく必要がある。

